

厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者対策総合研究事業）
分担研究報告書

支援機器の利用状況および関係する専門職の状況把握

研究分担者 硯川 潤 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
福祉機器開発部 福祉機器開発室長
研究協力者 澤田 有希 帝京科学大学 医療科学部作業療法学科

研究要旨 国際生活機能分類（以下、ICF）に準拠した支援機器の選定・調整を支援するためのガイドライン作成には、現状の障害者支援と ICF に関する教育における状況の把握が必要である。本分担研究においては、i) 障害者の在宅支援に従事する医療専門職が支援機器、特に補装具や日常生活用具などの範疇に入りにくいスマートデバイス等を利用した機器の適合業務に関する現況把握、ii) 医療関係技術者養成学校（4年制大学）における ICF に関する講義・演習の実態把握を、目的とした。

障害者の在宅支援に従事する医療福祉専門職へのインタビュー調査では、スマートデバイスの適合支援の実態が明らかになった。SNS 等の利用には、アプリケーションに対応した基本ソフト・端末の利用が欠かせず、従来の補装具とは異なったニーズへの対応が利用を促進している状況が示された。新規技術に対応するための知識獲得は、現状では各専門職の自助努力に依存する割合が大きく、それらを支援するシステムの構築が求められている。

大学での ICF 教育に関する実態調査では、大半の学科において ICF が必修の講義・演習に取り入れられていることが明らかになった。授業時間数の制約などから、詳細なコード体系やコーディングについては学科間で取り組み状況に差があるものの、ICF の概念モデルの重要性が認識され、臨床での活用を視野に入れた教育が広がっていることが確認された。

A. 研究目的

支援機器の選定・調整を支援するためのガイドライン作成には、現状の選定・調整プロセスを把握することが必要である。また、ICF を用いた支援機器の対応表のさらなる活用手法を提案するためには、その利用者として想定される医療専門職が、養成課程においてどの程度詳細に ICF に関する教育を受けているかを把握する必要がある。

以上の必要性を踏まえ、本分担研究においては、i) 障害者の在宅支援に従事する医療専門職が支援機器、特に補装具や日常生活用具などの範疇に入りにくいスマートデバイス等を利用した機器の適合業務

に関する現況把握、ii) 医療関係技術者養成学校（4年制大学）における ICF に関する講義・演習の実態把握、を目的とした。

B. 研究方法

1. 専門職インタビュー

異なる機関に属し、業務の一部として障害者の在宅支援に従事する医療福祉専門職（作業療法士 3 名、言語聴覚士 1 名、社会福祉士 1 名）を対象に、半構造化面接を行った。主たるインタビュー項目は以下の通りである。

・基本情報：
経験年数・年齢/現在までの業務経験/現在の業務内容（日常的な1日の流れも含む）/これまでの教育歴/在宅リハビリテーションの概要/対象とする利用者・疾患

・スマートデバイスの利用実態：
（タブレット PC やスマートスピーカー、スマートフォンなど）スマートデバイスを利用した支援をした経験/支援時の職種の関わり/具体的な支援内容/支援した利用者の疾患や状況など/支援の頻度/導入からフォローアップまでの流れ/どのように依頼されるのか/利用している制度/従来の機器の利用と比較してどうか/スマートデバイスを支援するときに必要なもの/注意すること。

・スマートデバイスの選定・導入における各専門職の役割：

作業療法士の他に関わっている職種/具体的な連携内容/自身の役割の認識/各専門職の役割の認識/役割分担の認識

・スマートデバイスの選定・導入のための知識・技能の習得過程：
知識はどのようにして得たか/選定や導入ができるようになったのはどの時期か/どんな経験がどのくらい必要だと考えるか

2. 教育実態調査

文部科学大臣指定（認定）医療関係技術者養成学校一覧（https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kanago/1353401.htm、令和元年5月1日現在）に掲載されている養成校（4年制大学）へ付録1に示した調査票を送付し、回答の返送を得た。職種と学校数は以下の通りである。（職種間で大学の重複を含む。）

作業療法士：81校
理学療法士：106校
言語聴覚士：24校
視能訓練士：9校
看護師：272校
義肢装具士：4校

調査票では、学科の体制等について、ICFに関連した講義・演習名およびその必修・選択の分類、ICFに関する教育内容等についての回答を求めた。

（倫理面への配慮）

なお、本調査の実施においては国立障害者リハビリテーションセンターおよび帝京科学大学倫理審査委員会の承認を得た（承認場合2020-076・19A057）。インタビュー協力者からは、承認を受けた手順に従って事前に同意を得た。

C. 研究結果

1. 専門職インタビュー

逐語録の質的分析より、在宅支援におけるスマートデバイスの適合支援に関して以下の視点が抽出された。

● コミュニケーション手段としての利用：

スマートフォンやタブレット端末にインストールされたアプリケーションの、コミュニケーション手段としての役割が度々強調された。特に、発症や重度化の前に使用していた手段の継続利用が望まれるケースが多く、スマートデバイスは社会とのつながりを維持する機器として重要性が高い。

● 公的給付：

補装具である意思伝達装置の範囲外の機器が選択されると、公的給付の対象とならない場合がある問題が指摘された。自治体によっては日常生活用具としての給付が可能だが、対象範囲には地域差がある。また、公的機関に所属する専門職は、業務範囲の制約から、給付対象外の機器への関与が難しいことも指摘された。

● プラットフォームへの依存：

使いたいアプリケーションやスイッチ等が基本ソフトや端末の種類に依存する場合がある。また、継続的な利用には、基本ソフトのアップデートなど、情報技術に関する基礎的な知識が求められる。このような点への対処は、医療専門職では知識が不足する場合があります、販売業者などに委ねられることが多い。

● 知識の獲得：

ソフトウェアなどの設定を医療専門職が担うこともあり、最新の技術動向に関する知識獲得が欠かせない。ただ、業務中にそのような時間を確保することは難しく、休日の研修参加など自助努力に依存する部分が多い。

2. 教育実態調査

調査票送付の結果、総送付校数（学科毎・大学の重複を含む）の29.8%（148件）から回答を得た。調査票の各設問に対する回答の単純集計結果を付録2に示した。

全回答件数148件中、147件で最低1コマの講義が設けられており、内98%が必修であった。またおよそ7割の学科で、ICF教育に関わる正規教員数が6名以下であり、関連講義の時間が20時間以下であった。

個別の教育内容の実施状況に関する設問（問3）では、

- ④ ICF-CYの存在
- ⑧ コード先頭のアルファベットの意味
- ⑨ コード数字部分の階層性（第1～4レベル）
- ⑩ 評価点（qualifier）の存在
- ⑬ 疾患に合わせたコアセットの存在
- ⑭ 具体的なコーディング

の6項目への回答において、「教えていない」が3割を超えた。臨床実習でのICFの活用に関する設問では「指導している」との回答がおよそ8割に達していた。

ICF教育への課題認識に関する自由記述回答では、以下のような点が主に指摘された。

- ・ 充満可能な授業時間の制限
- ・ コード体系の複雑さに起因するコーディング等の難しさ
- ・ 実習受け入れ施設間でのICFに対する理解度や認識の差

D. 考察

1. 専門職インタビュー

スマートデバイスは、SNSの普及などに伴い、障害者にとっても社会とのつながりを維持するために

不可欠なコミュニケーション手段となっている。一方で、補装具や日常生活用具といった公的支給ではカバーされない場合も多く、その選定・調整のプロセスは地域や関わる専門職の属性によりばらつきが大きいことが示唆された。利用にあたっては、基本ソフトとソフトウェアの相性など、一定の技術知識が必要なため、専門職には継続的な知識の獲得が要求される。しかし、現状では個人の自助努力に依存する割合が大きく、機器の選定・調整を支援する枠組みの構築が求められる。

2. 教育実態調査

回答の集計結果から、大半の養成校において、ICFに関連する講義・実習が必修科目としてカリキュラムに組み入れられていることが分かった。一方で、その内容は概念モデルとしての理解促進に重点を置いたものであることが示唆された。コード内容の詳細や、具体事例のコーディングなどは、授業時間数の制限などから限定的に扱われることが多いのである。ただし、臨床実習での活用はおよそ8割の学科で指導されていることから、その必要性や将来的な重要性は十分に認識されていると考えられる。

E. 結論

本分担研究においては、i) 障害者の在宅支援に従事する医療専門職が支援機器、特に補装具や日常生活用具などの範疇に入りにくいスマートデバイス等を利用した機器の適合業務に関する現況把握、ii) 医療関係技術者養成学校（4年制大学）におけるICFに関する講義・演習の実態把握、を目的とした。

障害者の在宅支援に従事する医療福祉専門職へのインタビュー調査では、スマートデバイスの適合支援の実態が明らかになった。SNS等の利用には、アプリケーションに対応した基本ソフト・端末の利用が欠かせず、従来の補装具とは異なったニーズへの対応が利用を促進している状況が示された。

大学でのICF教育に関する実態調査では、大半の学科においてICFが必修の講義・演習に取り入れられていることが明らかになった。授業時間数の制約などから、詳細なコード体系やコーディングについ

ては学科間で取り組み状況に差があるものの、ICF
の概念モデルの重要性が認識され、臨床での活用を
視野に入れた教育が広がっていることが確認された。

G. 研究発表

1. 論文発表

無し

2. 学会発表

無し

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

無し

2. 実用新案登録

無し

3. その他

無し

医療関係技術者養成大学における国際生活機能分類に関する教育実態調査

下記の設問へのご回答を本用紙に直接記入頂き、同封の返信用封筒にて調査事務局にご返送下さい。集計作業の都合上、誠に勝手ながらご回答の期限を 2021年2月5日(消印有効)とさせていただきます。調査結果は、下記にご回答頂く情報のみを集計して取りまとめます。個別の大学名との紐付けは一切行いません。

貴学科(専攻)での学部教育(4年制大学課程)における状況についてご回答下さい。

問1. 大学組織について伺います。

1-1. 養成専門職種を選択して下さい。(○は1つ)

1. 理学療法士	2. 作業療法士	3. 言語聴覚士
4. 視能訓練士	5. 義肢装具士	6. 看護師

1-2. 学年あたりの生徒は何名ですか。(数字を記入)

名

1-3. 学科所属の正規教員は何名ですか。(数字を記入)

名

問2. 国際生活機能分類(ICF)に関する教育プログラムについて伺います。

2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。

科目名 (記入)	履修学年 (学年を記入またはチェックを入れる)	必修・選択 (○は1つ)
①	() 年生 または <input type="checkbox"/> 学年の制限なし (チェック)	1.必修 2.選択
②	() 年生 または <input type="checkbox"/> 学年の制限なし (チェック)	1.必修 2.選択
③	() 年生 または <input type="checkbox"/> 学年の制限なし (チェック)	1.必修 2.選択
④	() 年生 または <input type="checkbox"/> 学年の制限なし (チェック)	1.必修 2.選択
⑤	() 年生 または <input type="checkbox"/> 学年の制限なし (チェック)	1.必修 2.選択
⑥	() 年生 または <input type="checkbox"/> 学年の制限なし (チェック)	1.必修 2.選択
⑦	() 年生 または <input type="checkbox"/> 学年の制限なし (チェック)	1.必修 2.選択
⑧	() 年生 または <input type="checkbox"/> 学年の制限なし (チェック)	1.必修 2.選択

⑨	()年生 または □学年の制限なし (チェック)	1.必修	2.選択
⑩	()年生 または □学年の制限なし (チェック)	1.必修	2.選択

2-2. 上記科目を含む4年間の講義・演習において、ICFを取り上げる総時間の概算は何時間ですか。(数字を記入)

およそ 時間

2-3. ICFに関する講義・演習に関わる正規教員は何名ですか。(数字を記入)

名

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。
(それぞれ〇は1つ)

項 目	重点的に教 えている	教えている	部分的に教 えている	教えていな い
① WHO (世界保健機関) が制定した国際分類 であること	1	2	3	4
② ICIDH (国際障害分類) から発展したこと	1	2	3	4
③ ICIDH との違い ※1	1	2	3	4
④ ICF-CY の存在 ※2	1	2	3	4
⑤ 生活機能の構成要素 ※3	1	2	3	4
⑥ 健康状態と背景因子 ※4	1	2	3	4
⑦ 健康状態、生活機能、背景因子間の相互 作用 ※5	1	2	3	4
⑧ コード先頭のアルファベットの意味 ※6	1	2	3	4
⑨ コード数字部分の階層性 (第1～4レベ ル) ※7	1	2	3	4
⑩ 評価点 (qualifier) の存在 ※8	1	2	3	4
⑪ 能力と実行状況 ※9	1	2	3	4
⑫ 促進因子と阻害因子 ※10	1	2	3	4
⑬ 疾患に合わせたコアセットの存在 ※11	1	2	3	4
⑭ 具体的なコーディング ※12	1	2	3	4
⑮ 具体的な対象者の全体像の整理 ※13	1	2	3	4

※1 疾病の帰結としての制約に関する分類であった ICIDH に対し、ICF は人間の生活すべてを対象としてプラスの側面に焦点が当てられている。

※2 小児・青少年に特有の項目を修正・追加した児童版が派生分類として存在する。

※3 心身機能・構造、活動、参加の3つのレベルが存在する。

※4 生活機能に影響を及ぼす要因として健康状態、環境因子、個人因子がある。環境因子についてはICFでコードが割り振られている。

※5 生活機能の3レベルは相互に影響を及ぼし合い、また健康状態や背景因子とも影響を及ぼし合う。

※6 b s d e がそれぞれ心身機能、構造、活動と参加、環境因子の各構成要素を表す。

※7 最大5桁の数字部は階層性を有しており、桁が増えるごとに第1から第4まで(第2レベルのみ2桁)より詳細な描写が割り振られている。

- ※8 0(問題なし)から4(完全な問題)の5段階で各コードに評価点をつけることでアセスメントツールとして用いられる
- ※9 活動と参加に対する、評価点は実行状況(現在の状況で行っていること)と能力(課題や行為を遂行する個人の能力)の2つの観点からそれぞれ付与する。
- ※10 環境因子の中で、生活機能に対してプラスの影響を及ぼすものを「促進因子」、マイナスの影響を及ぼすものを「阻害因子」と呼ぶ。
- ※11 ICF をより実用的に活用するために、特定の健康問題や医療状況に合わせて項目を抽出したコアセットが提供されている。
- ※12 具体的な症例などについて、あてはまるコードを選択するなどのコーディングの演習を行う。
- ※13 アセスメントでの活用を志向し、具体的な対象者像を設定し、ICF を利用して全体像を整理・把握する演習を行う

問4. 臨床実習でのICFの活用状況について伺います。対象者について、ICFを用いてその状態を評価するように指導していますか。(○は1つ)

1. 指導している	2. 指導していない
-----------	------------

問5. ICF の教育について認識されている課題などがございましたらご回答下さい。

ご回答ありがとうございました。2021年2月5日までに(消印有効)
同封の返信用封筒に入れて、ポストにご投函ください(切手は必要ありません)。

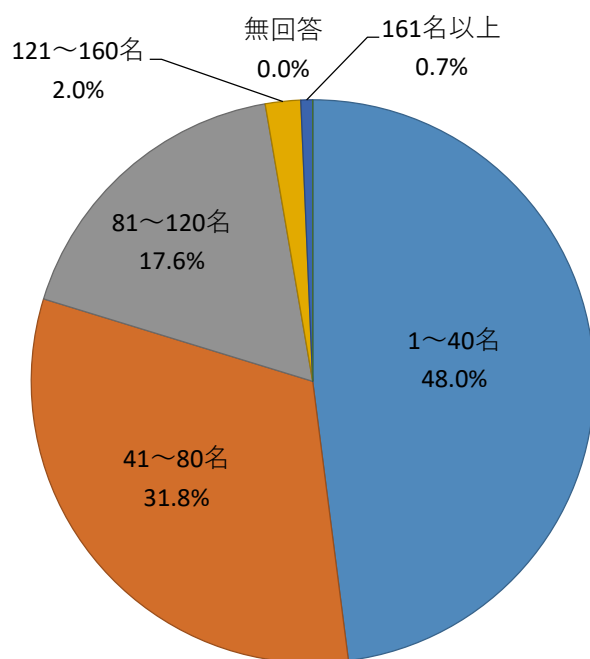
付録2(教育実態調査集計結果)

1-1. 養成専門職種を選択して下さい。

【1-1. 養成専門職種を選択して下さい。】については、「理学療法士」35.8%、「看護師」28.4%、「作業療法士」25.0%、その他職種及び無回答が10.8%であった。

1-2. 学年あたりの生徒は何名ですか。

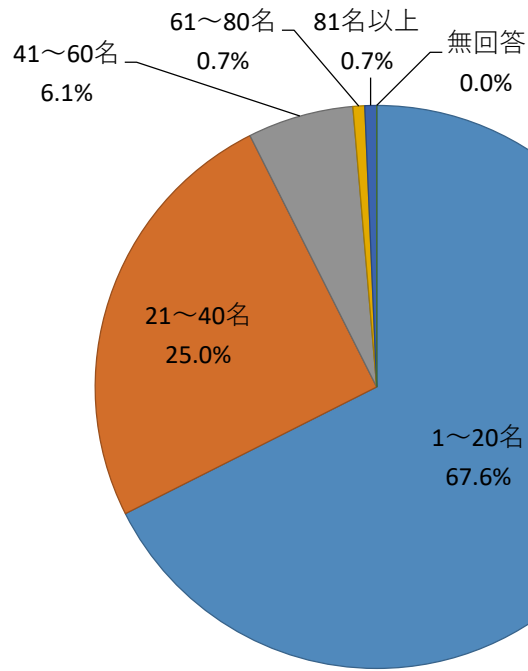
【1-2. 学年あたりの生徒は何名ですか。】については、「1～40名」48.0%、「41～80名」31.8%、「81～120名」17.6%、「121～160名」2.0%、「161名以上」0.7%となっている。



n=148

1-3. 学科所属の正規教員は何名ですか。

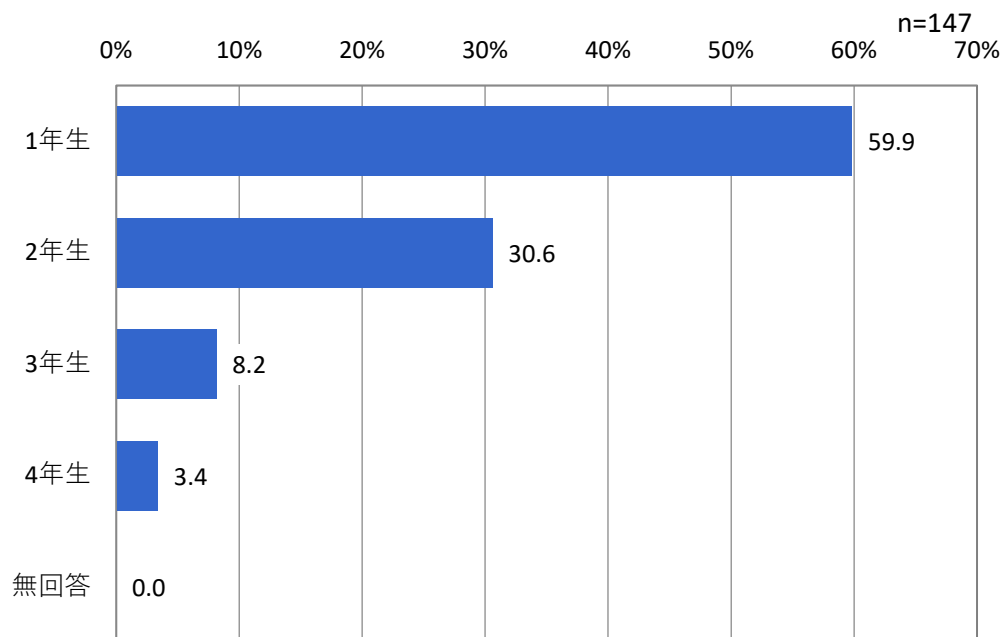
【1-3. 学科所属の正規教員は何名ですか。】については、「1～20名」67.6%、「21～40名」25.0%、「41～60名」6.1%、「61～80名」0.7%、「81名以上」0.7%となっている。



n=148

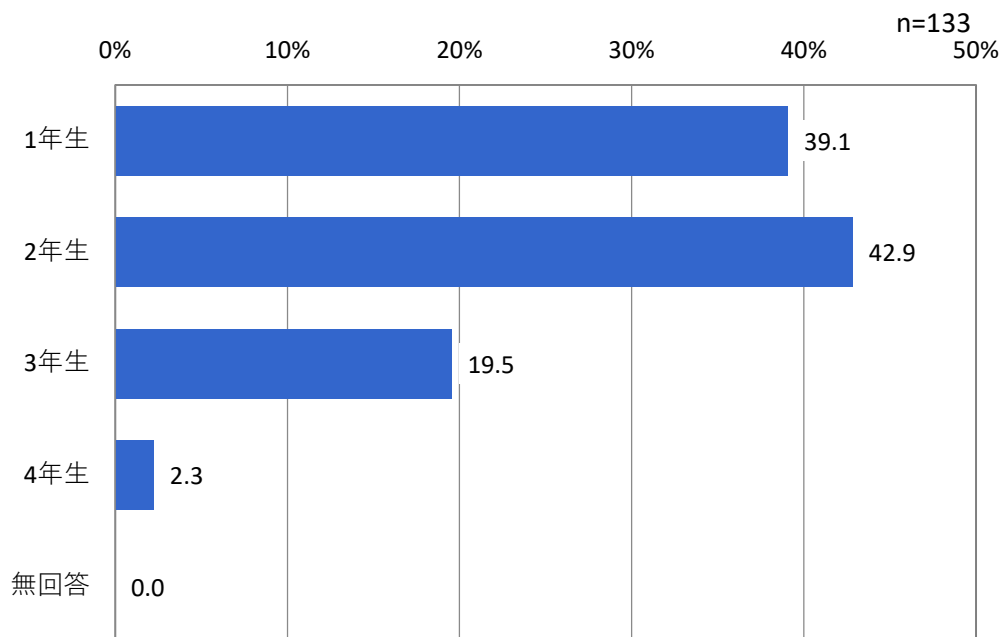
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/①学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/①学年】については、「1 年生」59.9%、「2 年生」30.6%、「3 年生」8.2%、「4 年生」3.4%となっている。



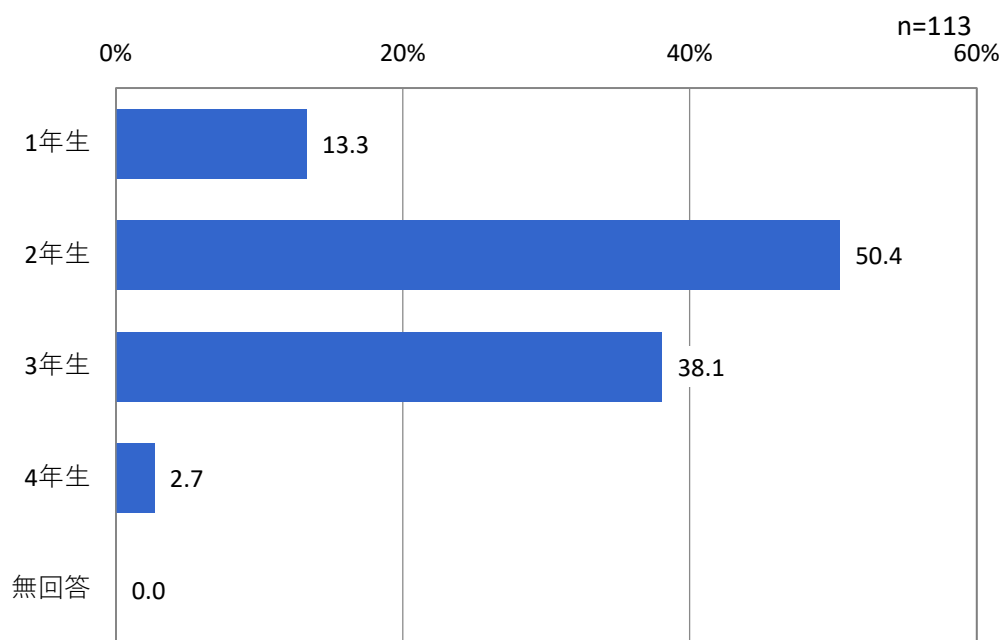
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/②学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/②学年】については、「2 年生」42.9%、「1 年生」39.1%、「3 年生」19.5%、「4 年生」2.3%となっている。



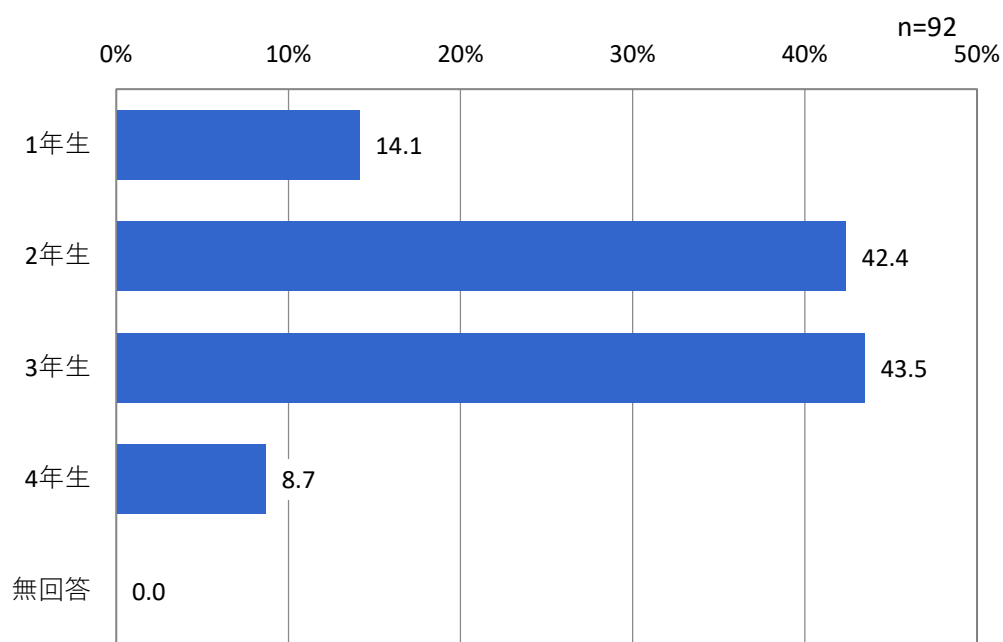
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/③学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/③学年】については、「2 年生」50.4%、「3 年生」38.1%、「1 年生」13.3%、「4 年生」2.7%となっている。



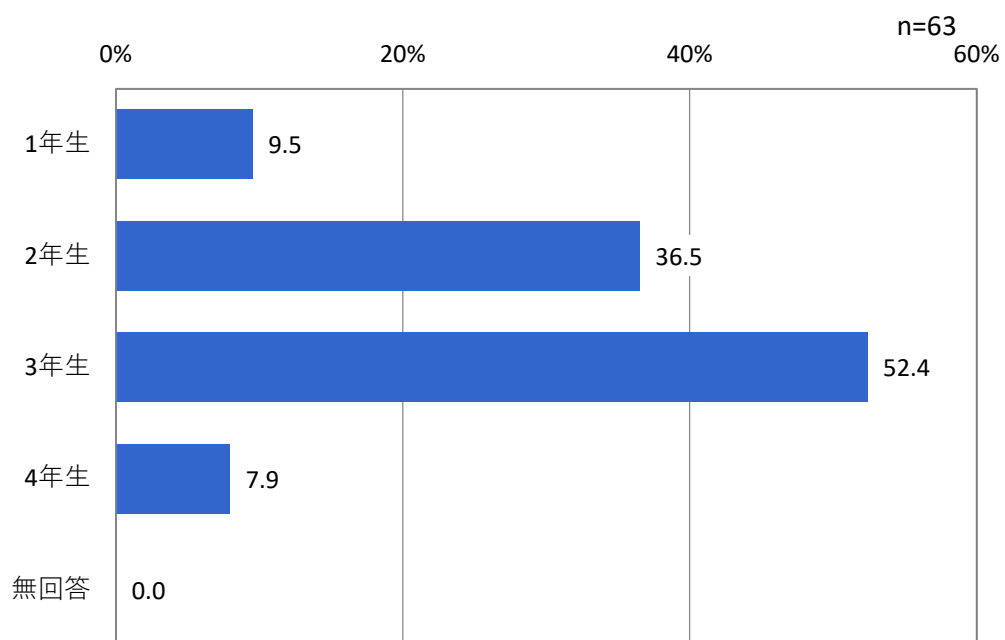
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/④学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/④学年】については、「3 年生」43.5%、「2 年生」42.4%、「1 年生」14.1%、「4 年生」8.7%となっている。



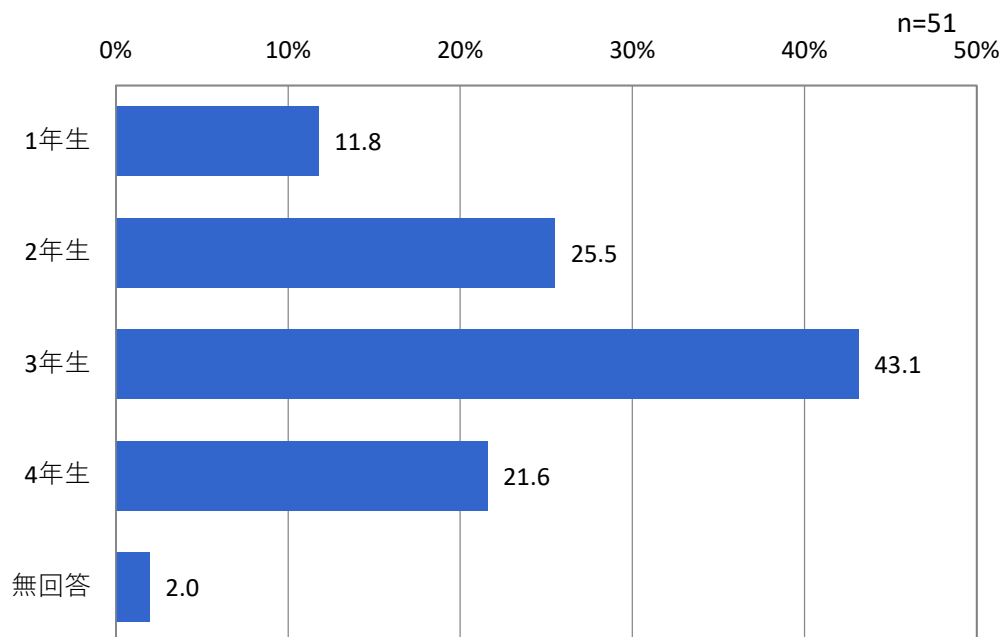
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑤学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑤学年】については、「3 年生」52.4%、「2 年生」36.5%、「1 年生」9.5%、「4 年生」7.9%となっている。



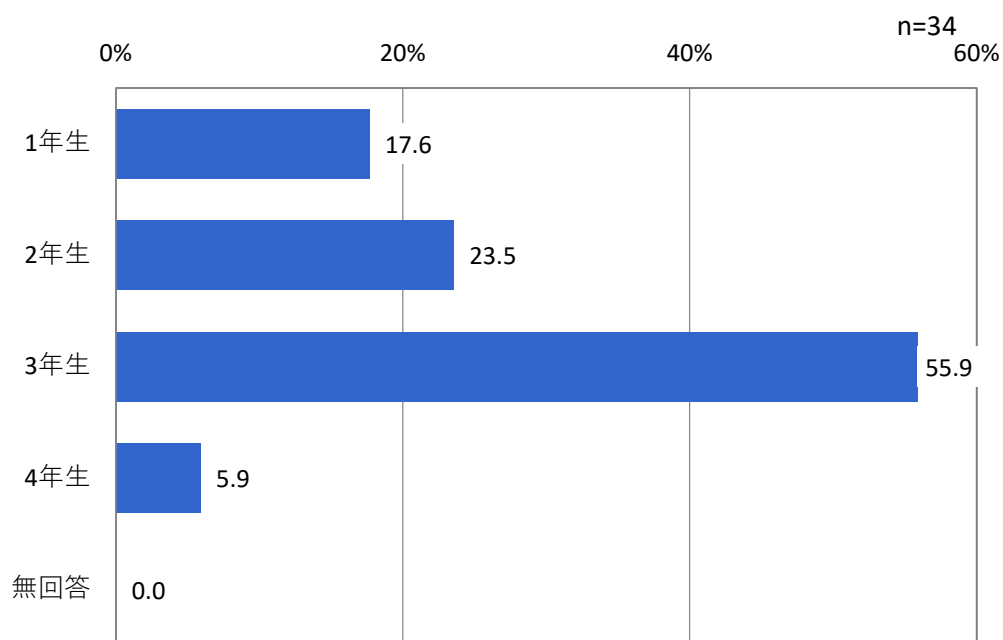
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑥学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑥学年】については、「3 年生」43.1%、「2 年生」25.5%、「4 年生」21.6%、「1 年生」11.8%となっている。



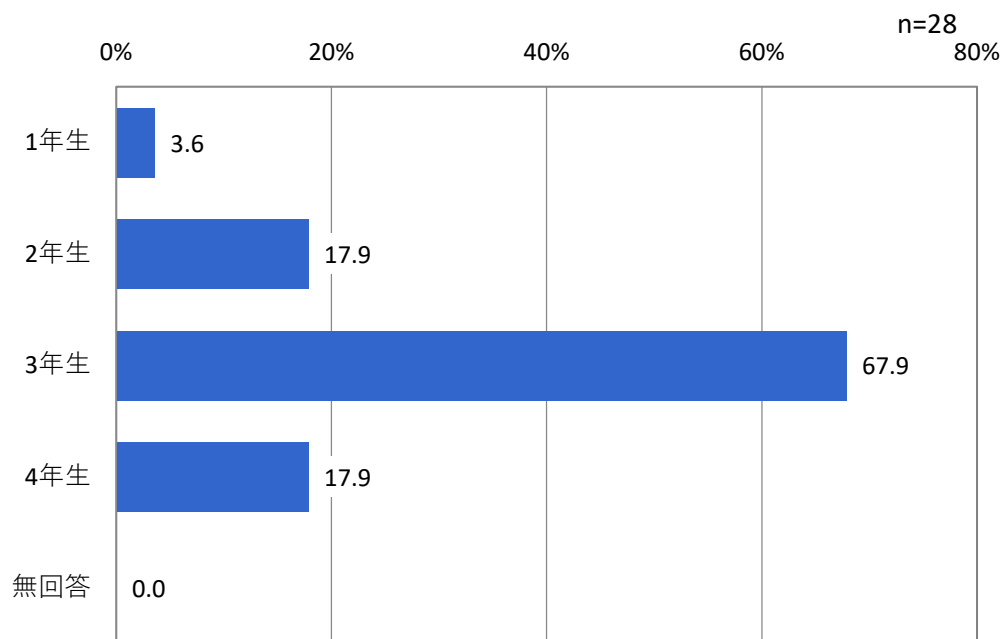
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑦学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑦学年】については、「3 年生」55.9%、「2 年生」23.5%、「1 年生」17.6%、「4 年生」5.9%となっている。



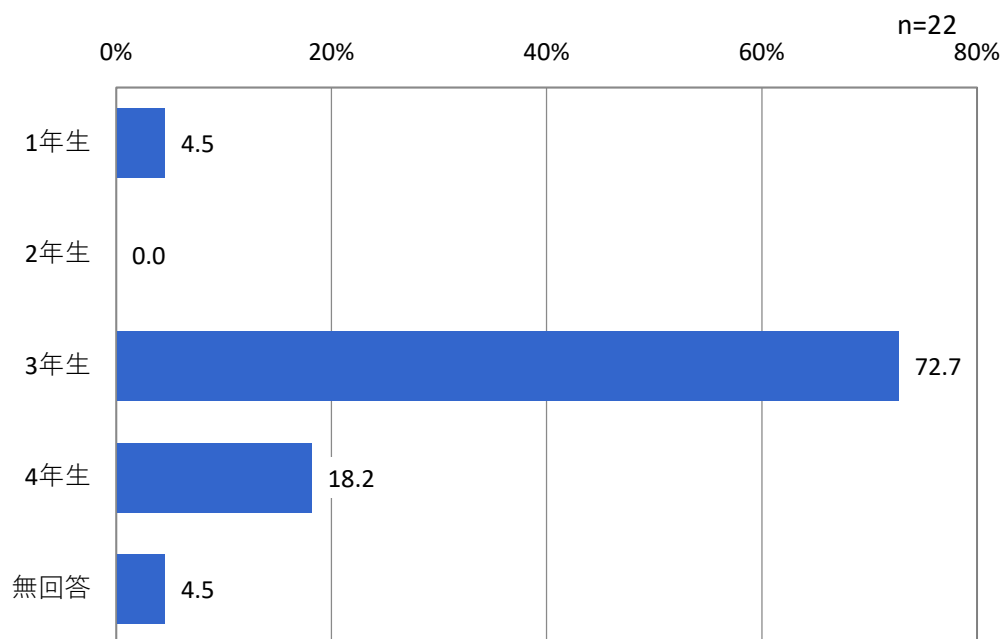
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑧学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑧学年】については、「3 年生」67.9%、「2 年生」17.9%、「4 年生」17.9%、「1 年生」3.6%となっている。



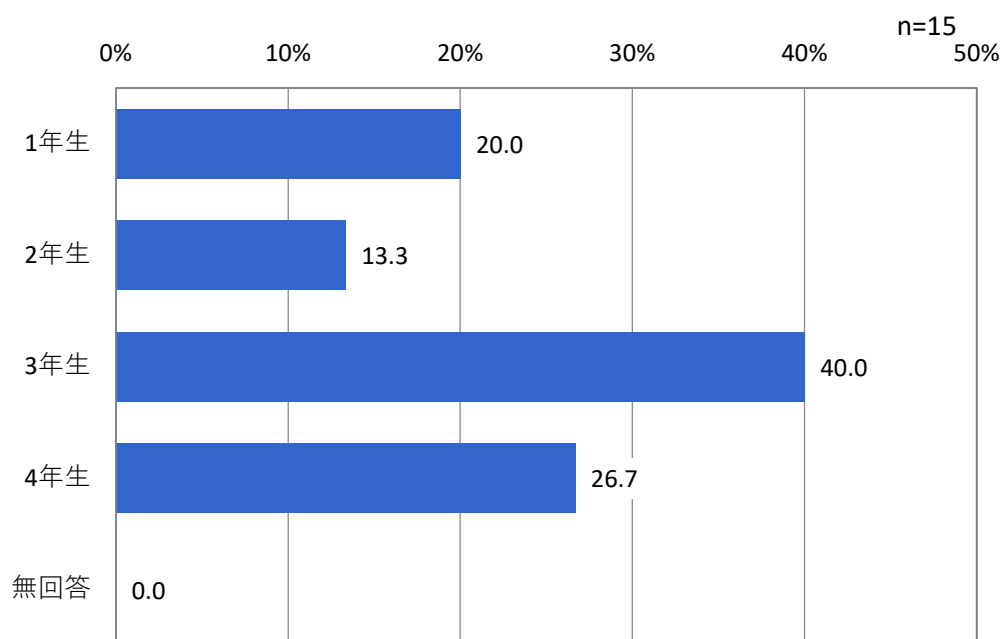
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑨学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑨学年】については、「3 年生」72.7%、「4 年生」18.2%、「1 年生」4.5% となっている。



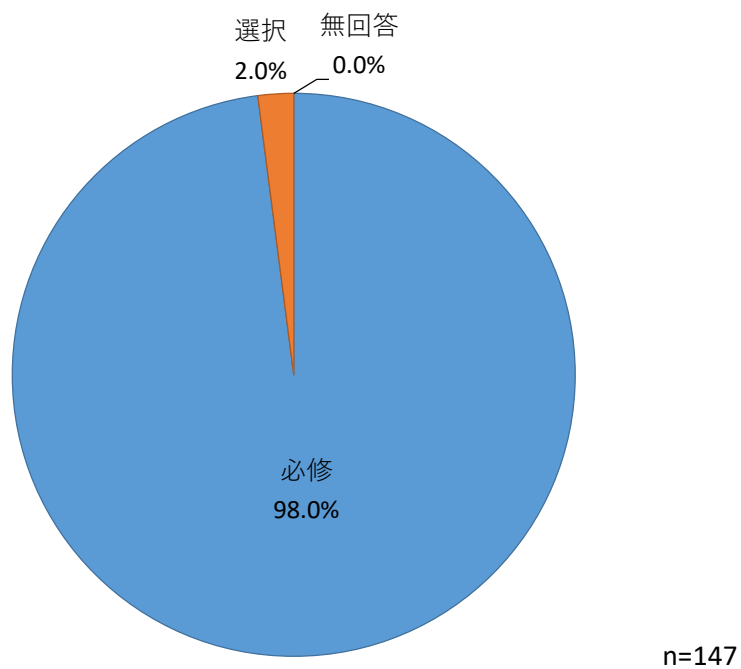
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑩学年

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑩学年】については、「3 年生」40.0%、「4 年生」26.7%、「1 年生」20.0%、「2 年生」13.3%となっている。



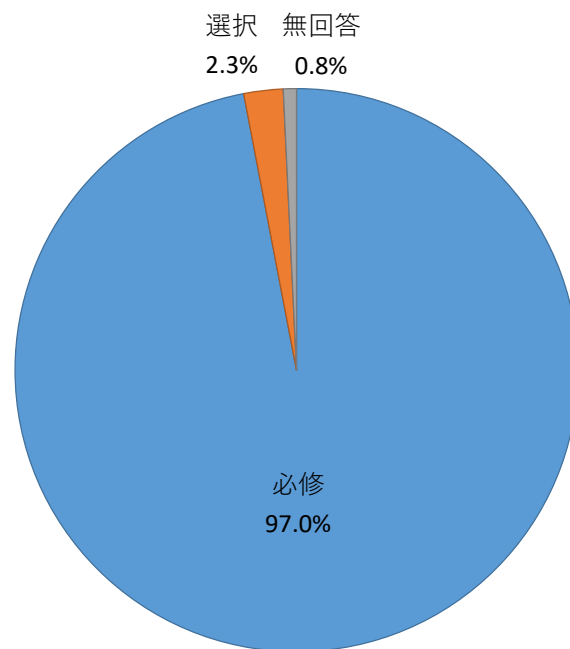
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/①必修・選択

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/①必修・選択】については、「必修」98.0%、「選択」2.0%となっている。



2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/②必修・選択

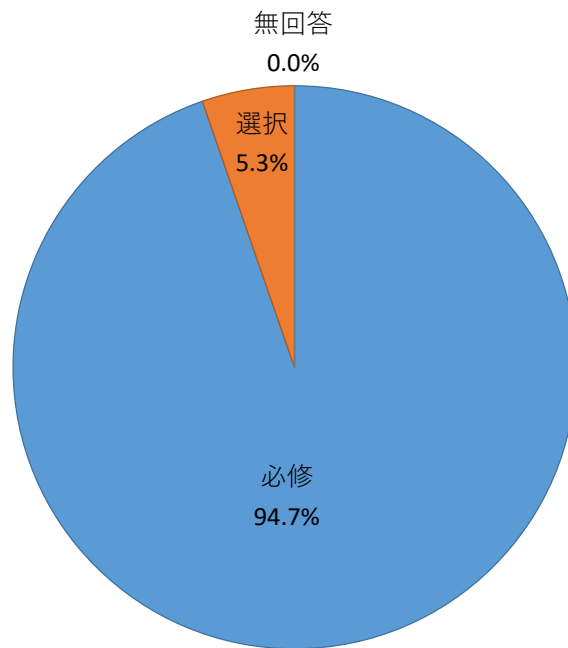
【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/②必修・選択】については、「必修」97.0%、「選択」2.3%となっている。



n=133

2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/③必修・選択

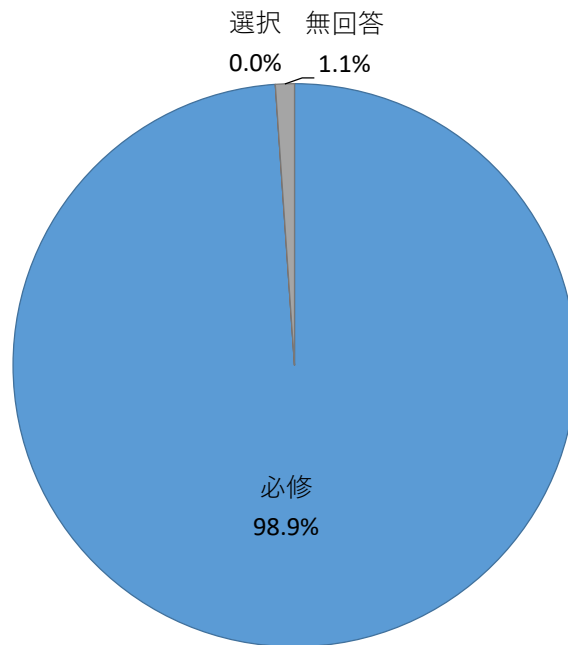
【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/③必修・選択】については、「必修」94.7%、「選択」5.3%となっている。



n=113

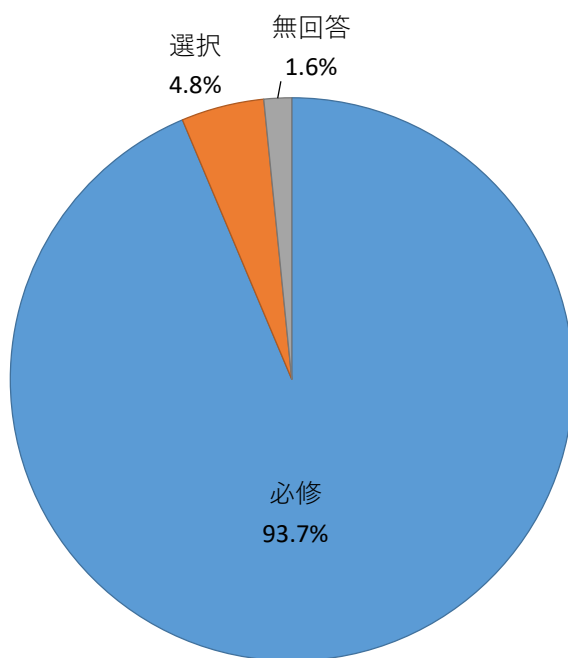
2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/④必修・選択

【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/④必修・選択】については、「必修」98.9%となっている。



2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑤必修・選択

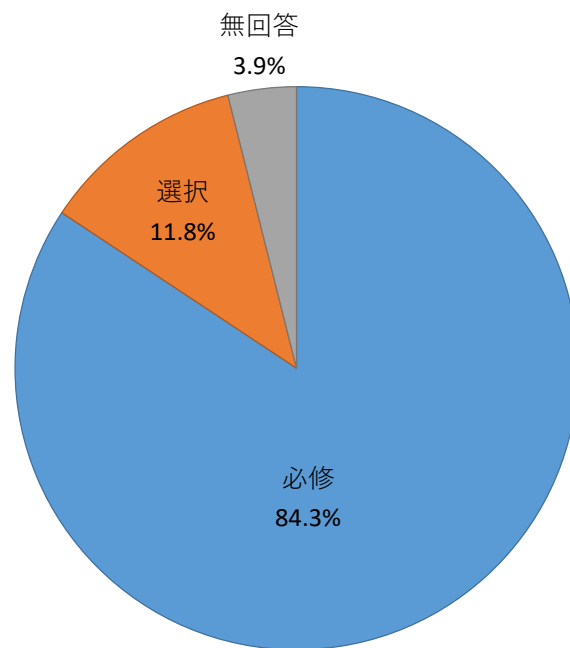
【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑤必修・選択】については、「必修」93.7%、「選択」4.8%となっている。



n=63

2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑥必修・選択

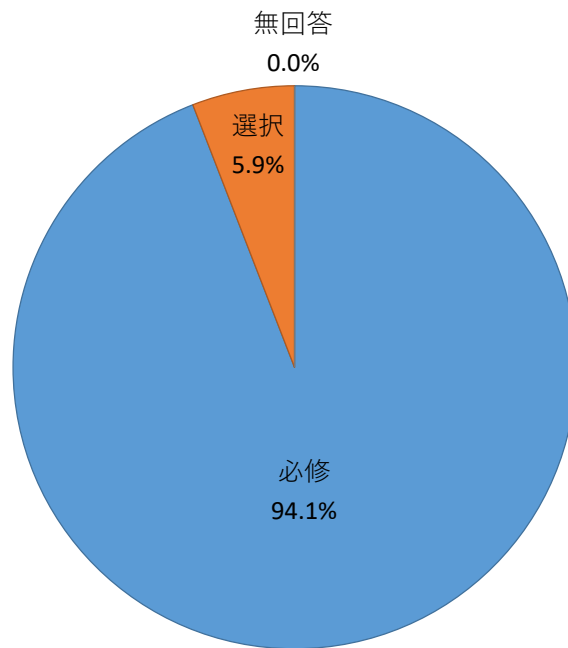
【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑥必修・選択】については、「必修」84.3%、「選択」11.8%となっている。



n=51

2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑦必修・選択

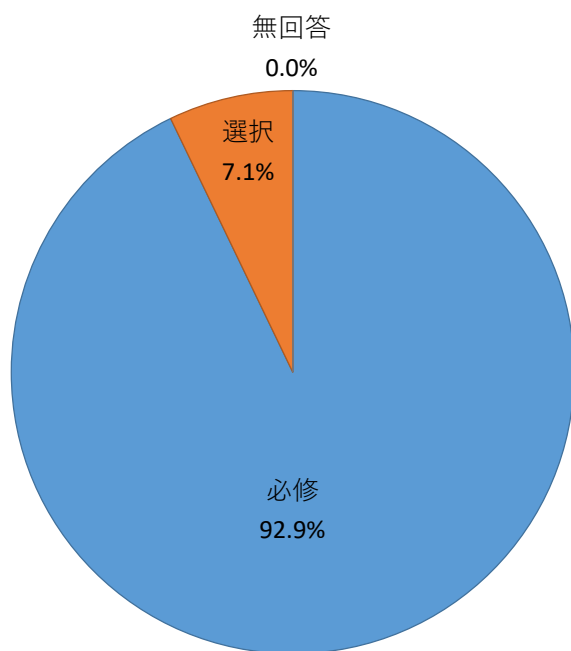
【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑦必修・選択】については、「必修」94.1%、「選択」5.9%となっている。



n=34

2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑧必修・選択

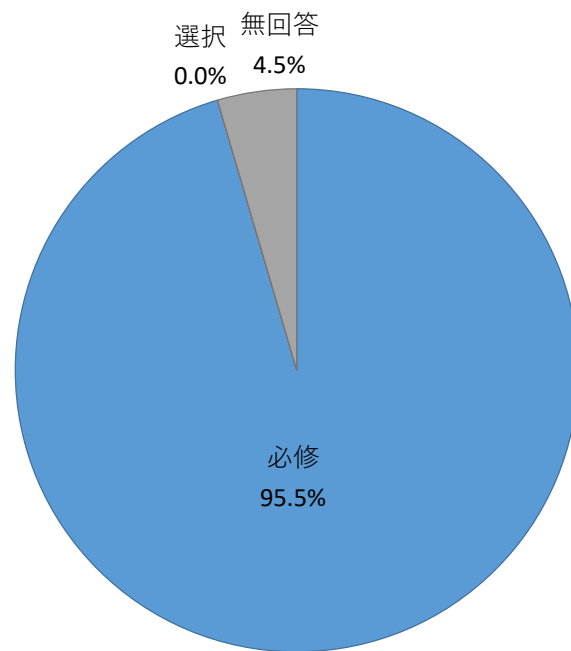
【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑧必修・選択】については、「必修」92.9%、「選択」7.1%となっている。



n=28

2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑨必修・選択

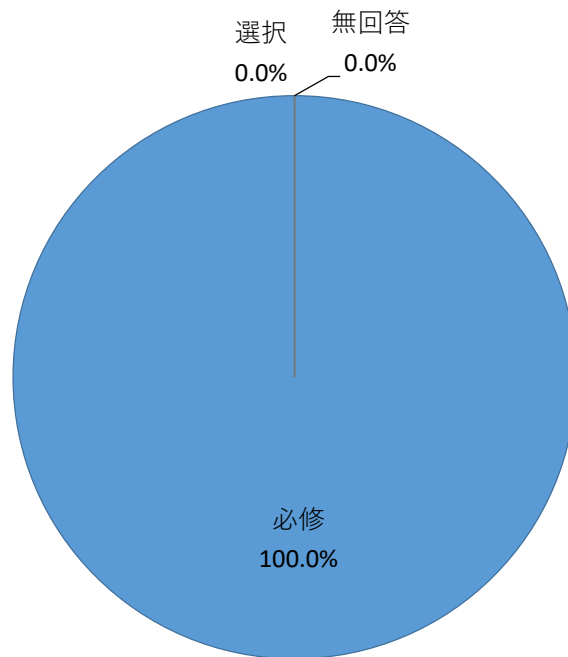
【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑨必修・選択】については、「必修」95.5%となっている。



n=22

2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑩必修・選択

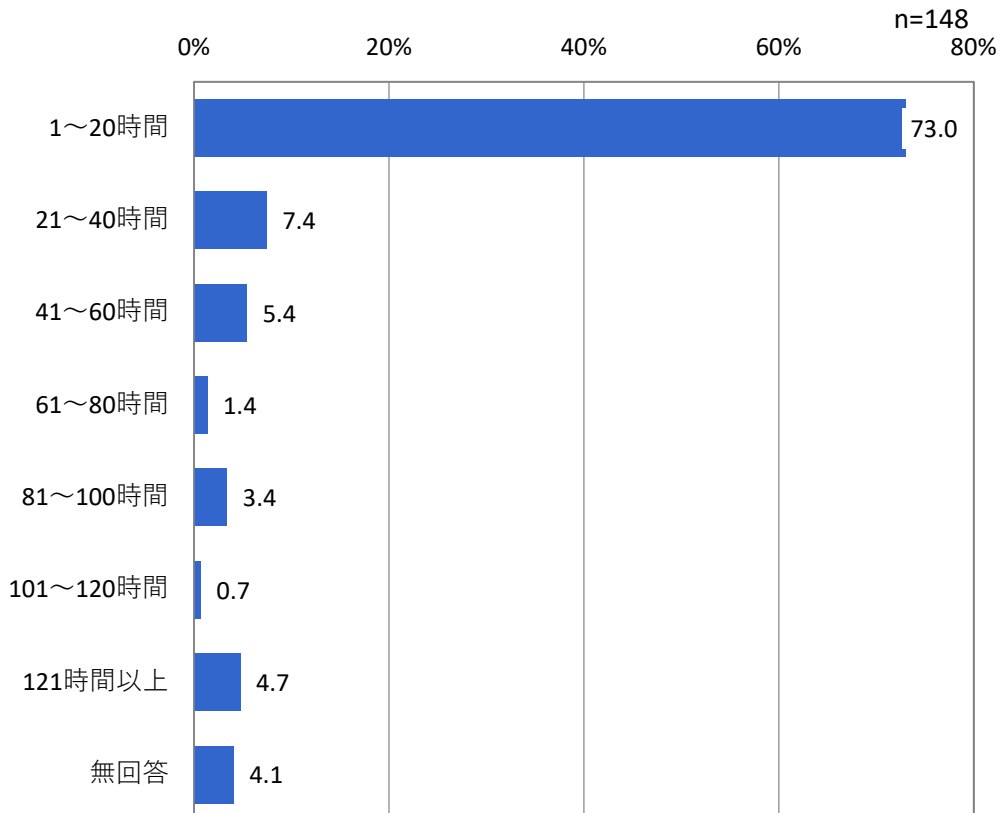
【2-1. ICF を取り上げる主な講義・演習について、科目名、履修学年、必修・選択の別を最大 10 件ご回答下さい。/⑩必修・選択】については、「必修」100%となっている。



n=15

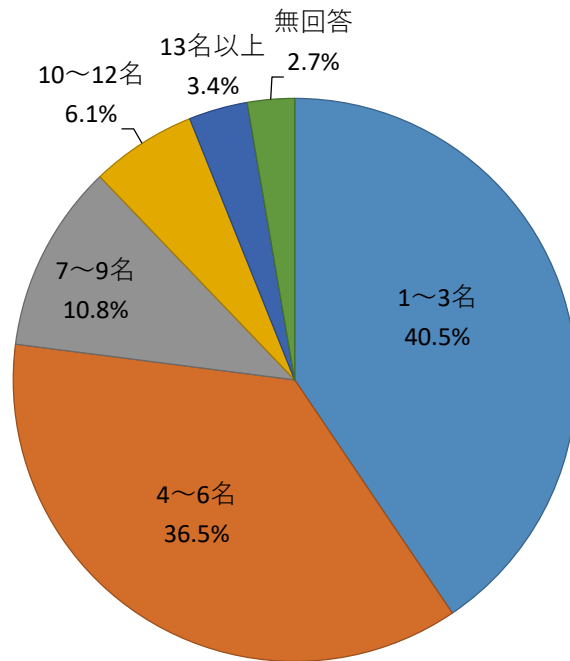
2-2. 上記科目を含む4年間の講義・演習において、ICFを取り上げる総時間の概算は何時間ですか。

【2-2. 上記科目を含む4年間の講義・演習において、ICFを取り上げる総時間の概算は何時間ですか。】については、「1～20時間」73.0%、「21～40時間」7.4%、「41～60時間」5.4%、「121時間以上」4.7%、「81～100時間」3.4%、「61～80時間」1.4%、「101～120時間」0.7%となっている。



2-3. ICF に関する講義・演習に関わる正規教員は何名ですか。

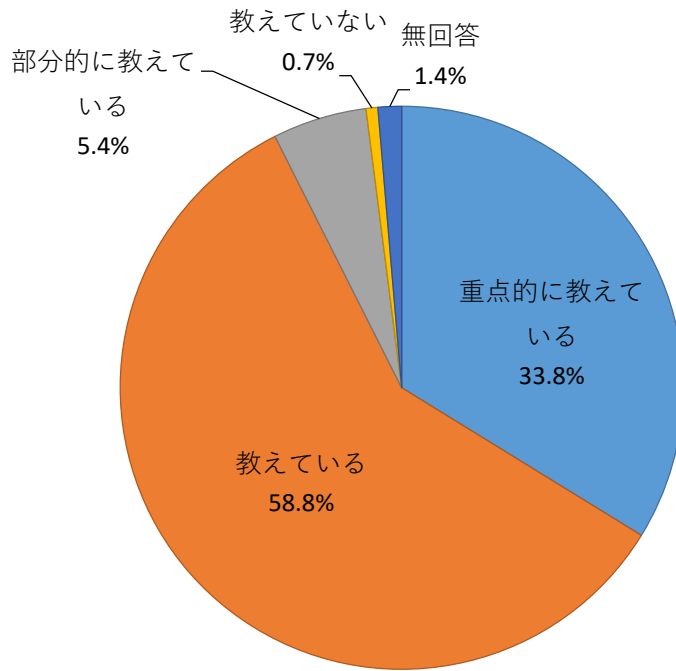
【2-3. ICF に関する講義・演習に関わる正規教員は何名ですか。】については、「1～3名」40.5%、「4～6名」36.5%、「7～9名」10.8%、「10～12名」6.1%、「13名以上」3.4%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/① WHO (世界保健機関) が制定した国際分類であること

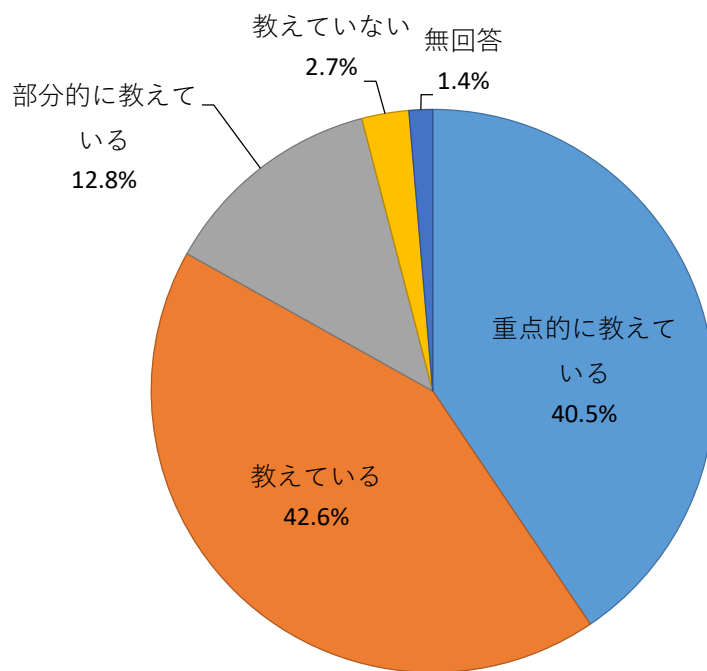
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/① WHO (世界保健機関) が制定した国際分類であること】については、「教えている」58.8%、「重点的に教えている」33.8%、「部分的に教えている」5.4%、「教えていない」0.7%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/② ICIDH (国際障害分類) から発展したこと

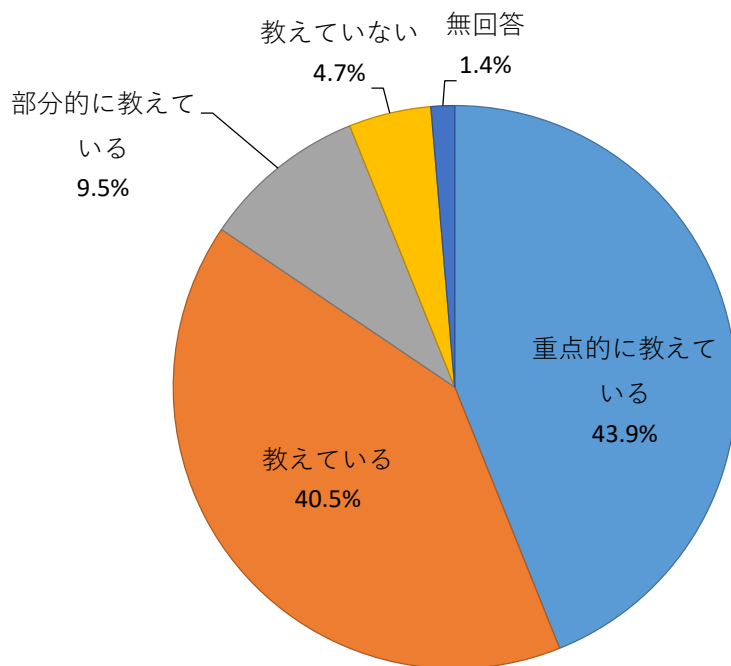
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/② ICIDH (国際障害分類) から発展したこと】については、「教えている」42.6%、「重点的に教えている」40.5%、「部分的に教えている」12.8%、「教えていない」2.7%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/③ ICIDHとの違い

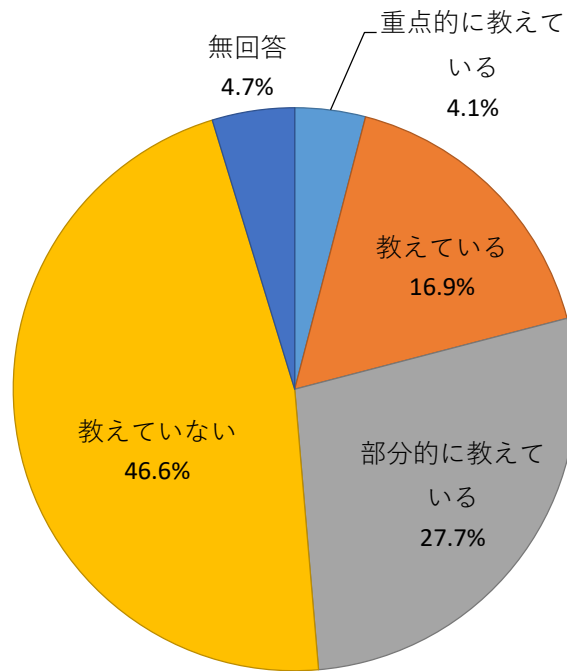
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/③ ICIDHとの違い】については、「重点的に教えている」43.9%、「教えている」40.5%、「部分的に教えている」9.5%、「教えていない」4.7%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/④ ICF-CYの存在

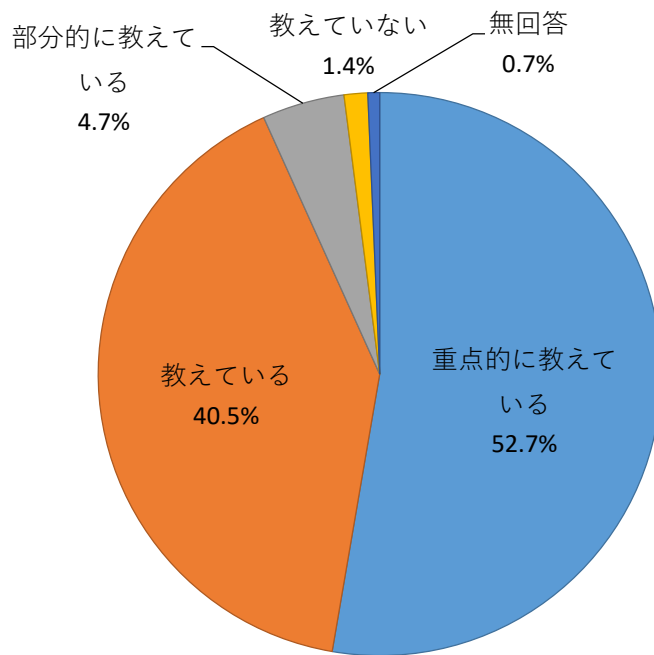
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/④ ICF-CYの存在】については、「教えていない」46.6%、「部分的に教えている」27.7%、「教えている」16.9%、「重点的に教えている」4.1%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑤ 生活機能の構成要素

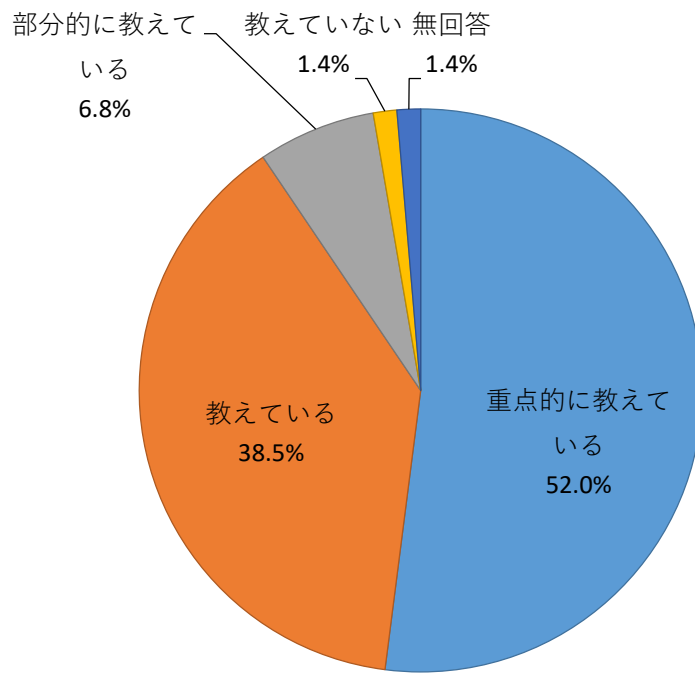
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑤ 生活機能の構成要素】については、「重点的に教えている」52.7%、「教えている」40.5%、「部分的に教えている」4.7%、「教えていない」1.4%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑥ 健康状態と背景因子

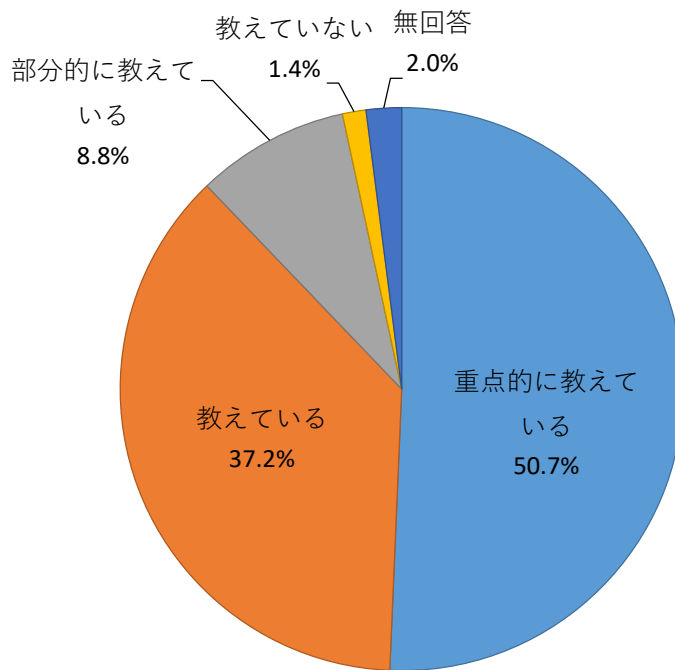
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑥ 健康状態と背景因子】については、「重点的に教えている」52.0%、「教えている」38.5%、「部分的に教えている」6.8%、「教えていない」1.4%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑦ 健康状態、生活機能、背景因子間の相互作用

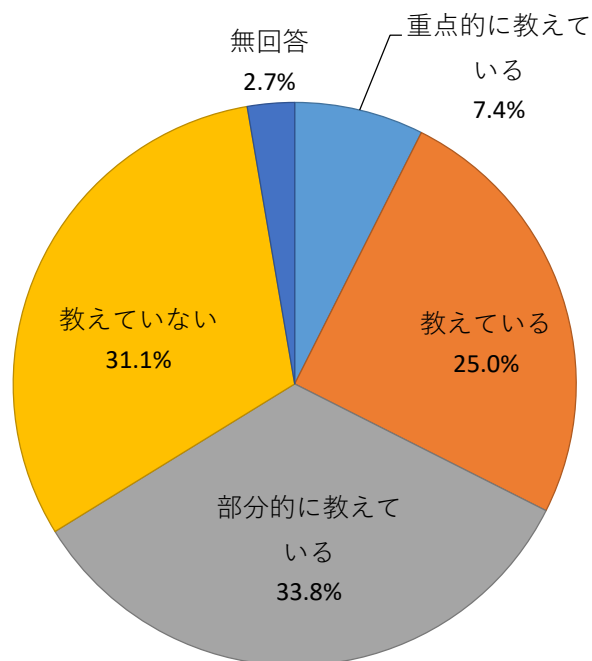
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑦ 健康状態、生活機能、背景因子間の相互作用】については、「重点的に教えている」50.7%、「教えている」37.2%、「部分的に教えている」8.8%、「教えていない」1.4%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑧ コード先頭のアルファベットの意味

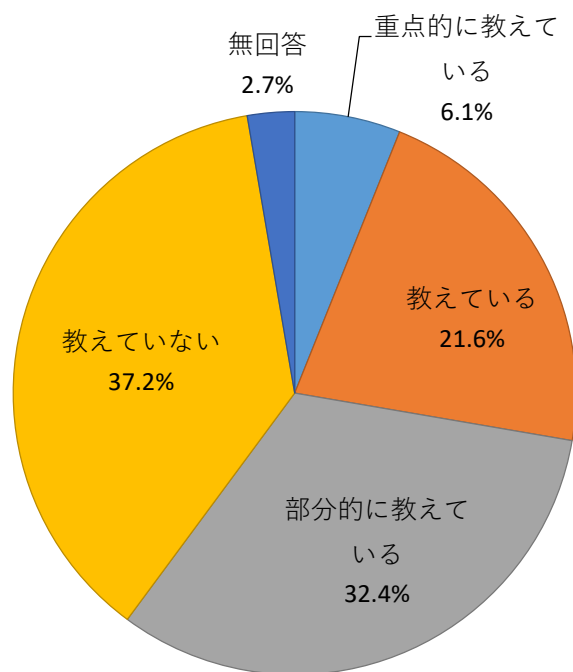
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑧ コード先頭のアルファベットの意味】については、「部分的に教えている」33.8%、「教えていない」31.1%、「教えている」25.0%、「重点的に教えている」7.4%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑨ コード数字部分の階層性（第1～4レベル）

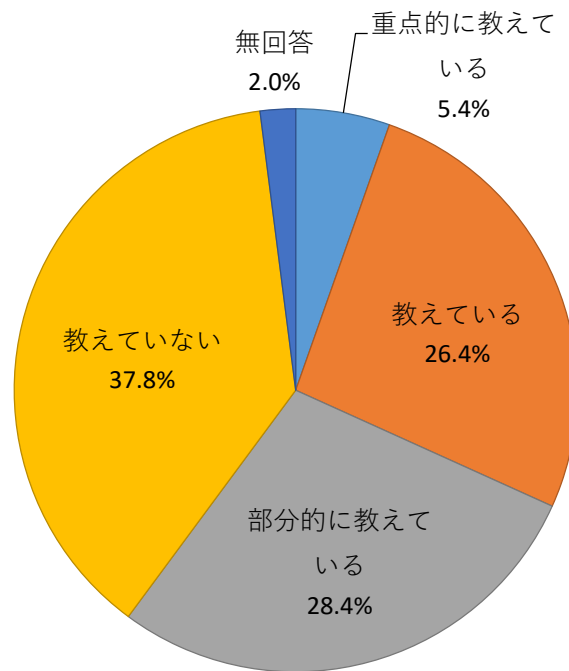
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑨ コード数字部分の階層性（第1～4レベル）】については、「教えていない」37.2%、「部分的に教えている」32.4%、「教えている」21.6%、「重点的に教えている」6.1%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑩ 評価点 (qualifier) の存在

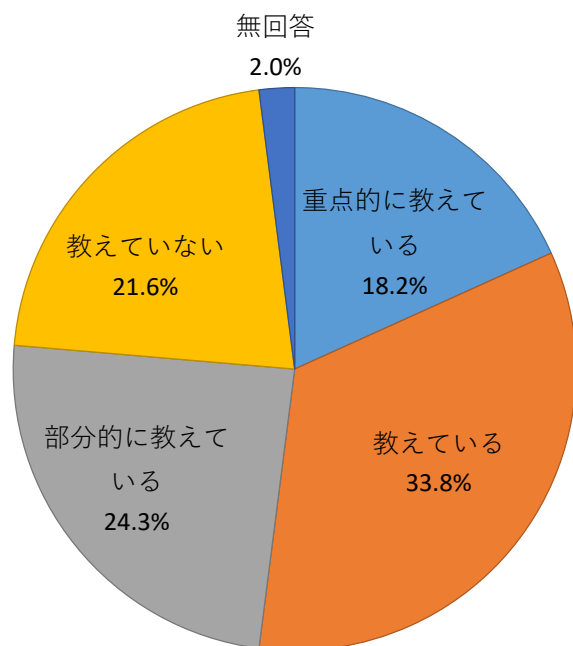
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑩ 評価点 (qualifier) の存在】については、「教えていない」37.8%、「部分的に教えている」28.4%、「教えている」26.4%、「重点的に教えている」5.4%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑪ 能力と実行状況

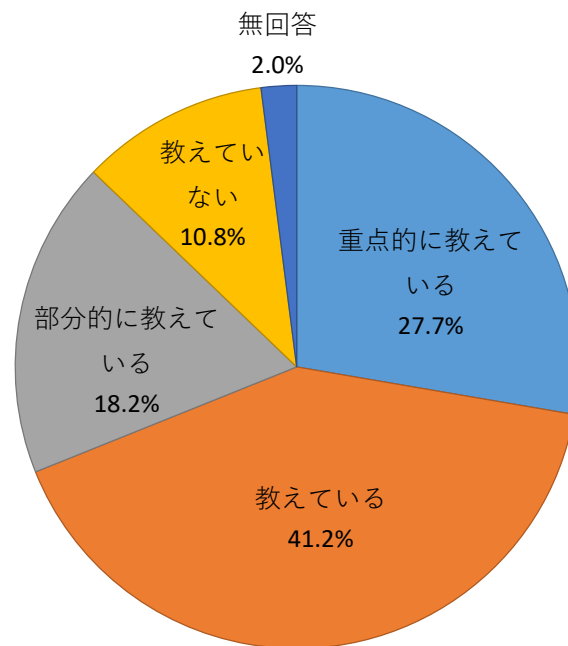
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑪ 能力と実行状況】については、「教えている」33.8%、「部分的に教えている」24.3%、「教えていない」21.6%、「重点的に教えている」18.2%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑫ 促進因子と阻害因子

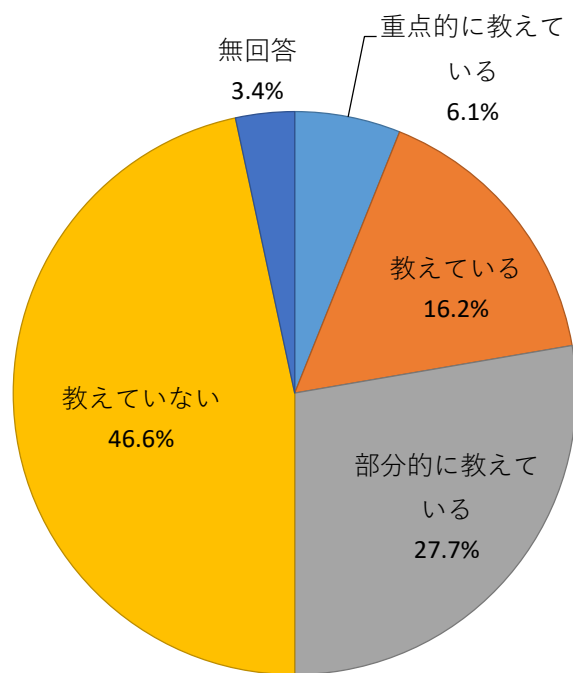
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑫ 促進因子と阻害因子】については、「教えている」41.2%、「重点的に教えている」27.7%、「部分的に教えている」18.2%、「教えていない」10.8%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑬ 疾患に合わせたコアセットの存在

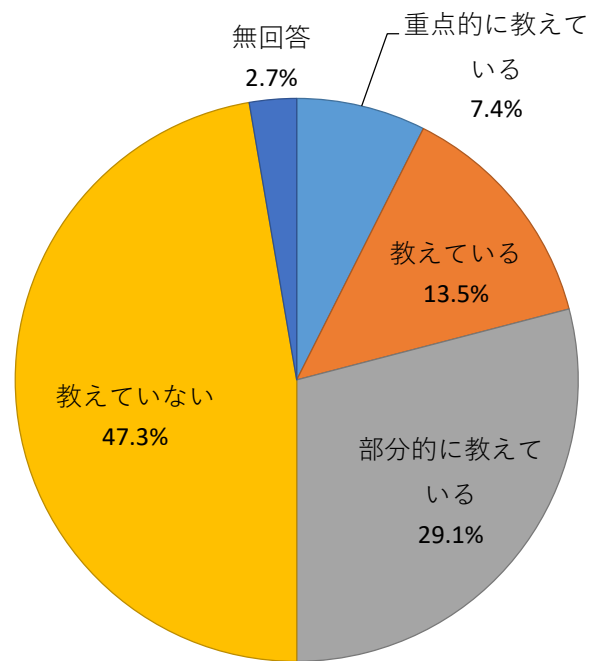
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑬ 疾患に合わせたコアセットの存在】については、「教えていない」46.6%、「部分的に教えている」27.7%、「教えている」16.2%、「重点的に教えている」6.1%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑭ 具体的なコーディング

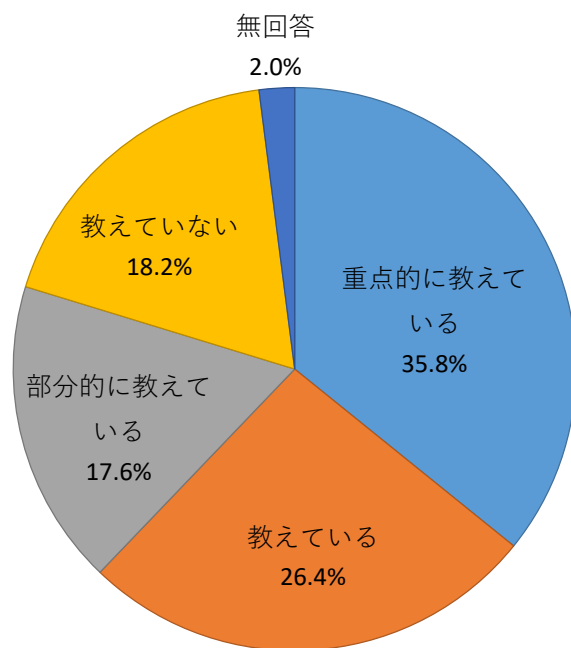
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑭ 具体的なコーディング】については、「教えていない」47.3%、「部分的に教えている」29.1%、「教えている」13.5%、「重点的に教えている」7.4%となっている。



n=148

問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑮ 具体的な対象者の全体像の整理

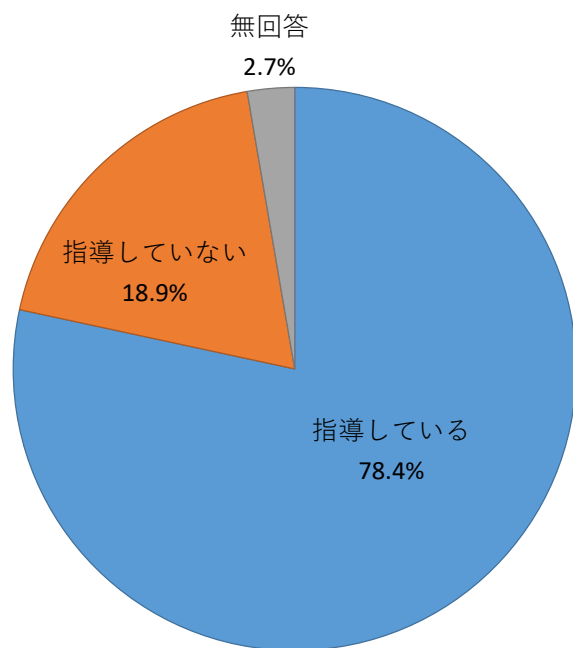
【問3. 具体的な教育内容について伺います。下記項目についての状況をご回答下さい。/⑮ 具体的な対象者の全体像の整理】については、「重点的に教えている」35.8%、「教えている」26.4%、「教えていない」18.2%、「部分的に教えている」17.6%となっている。



n=148

問 4. 臨床実習での ICF の活用状況について伺います。対象者について、ICF を用いてその状態を評価するように指導していますか。

【問 4. 臨床実習での ICF の活用状況について伺います。対象者について、ICF を用いてその状態を評価するように指導していますか。】については、「指導している」78.4%、「指導していない」18.9%となっている。



n=148